

各機関のプロジェクトの取組

目 次

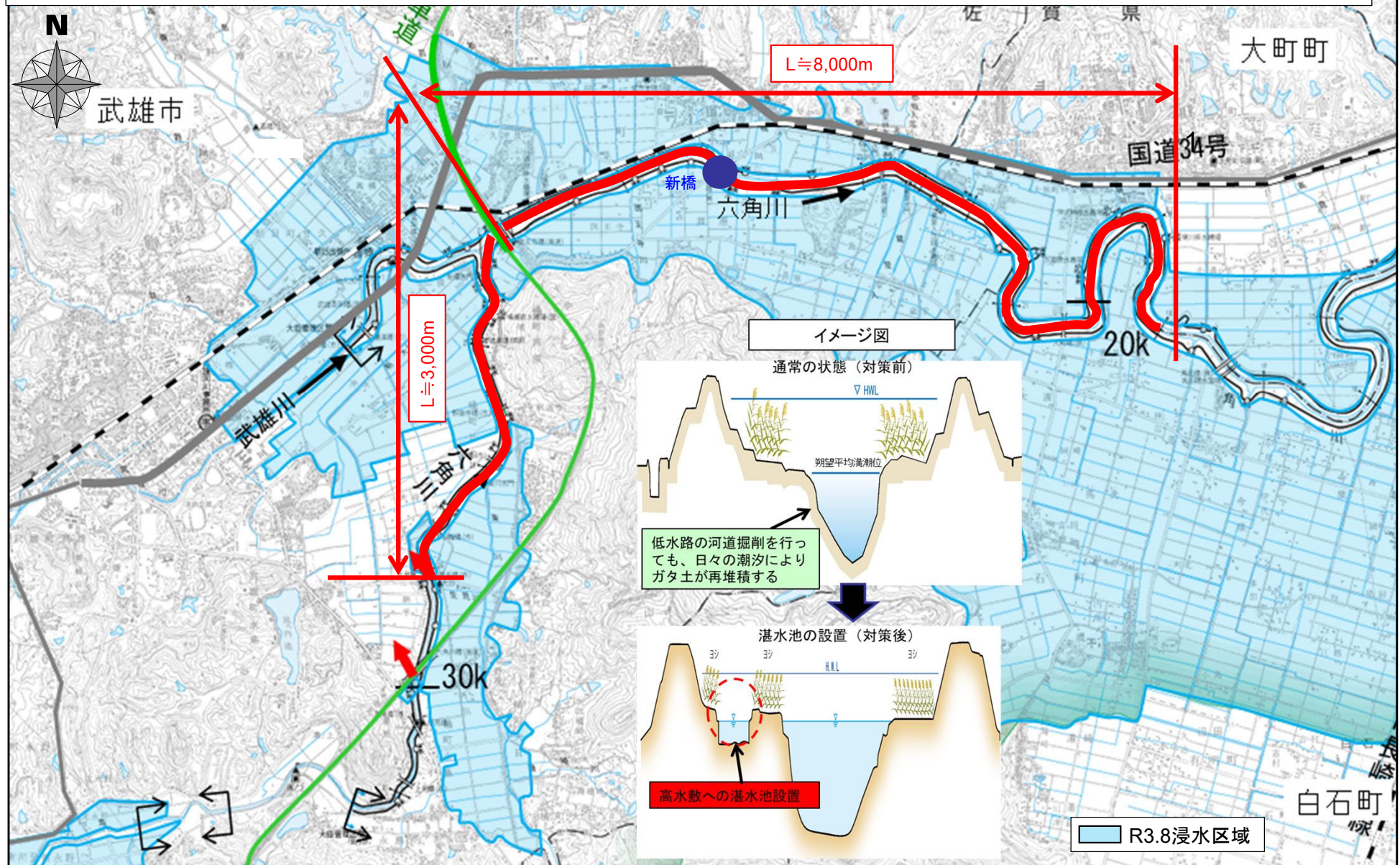
1. 武雄河川事務所	1
2. 佐賀県	6
3. 多久市	1 3
4. 武雄市	1 6
5. 小城市	1 8
6. 大町町	2 1
7. 江北町	2 3
8. 白石町	2 6
8. 佐賀地方気象台	2 9
9. 森林整備センター	3 5

武 雄 河 川 事 務 所

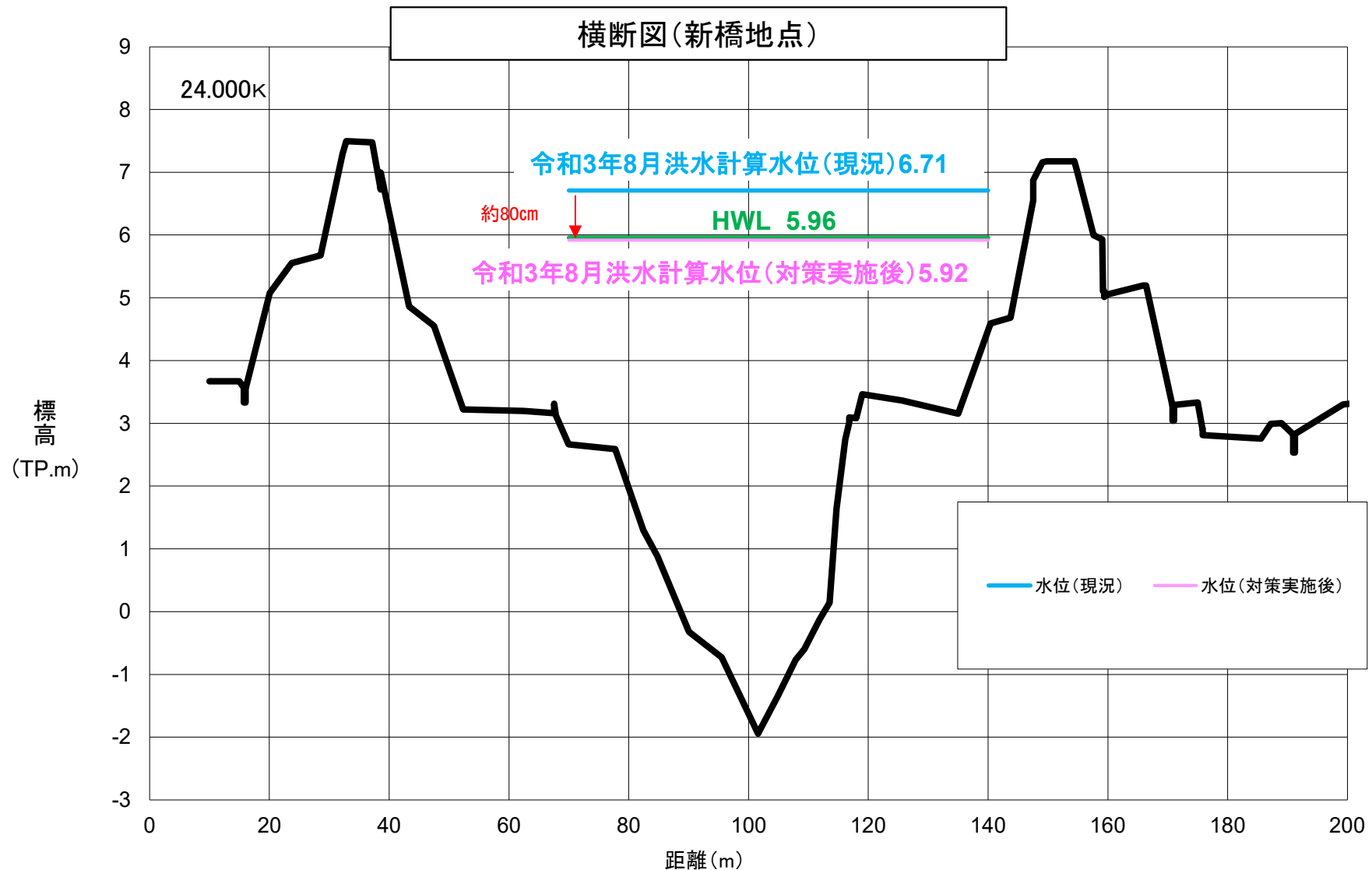
新・六プロに掲載する対策の紹介

次期出水期対応としての緊急河道掘削について(1/2)

- 令和3年8月出水対応として、六角川の18k~29k区間（予定区間含む）で緊急的に河道整備を実施し、河川水位を低下させる。



■ 令和3年8月洪水実績流量に対し、河道整備を実施することにより新橋地点での水位をH.W.L以下に低下（約80cm）することでポンプ運転調整を回避させる。



※数値はシミュレーション結果によるもので検討状況により変更あり

◆河川整備計画の変更

【概ね1～2年】

現・整備計画: 1/90

※令和2年7月策定

新・整備計画: 1/100

●主な追加メニュー

✓ 六角川上流遊水地群など

◆気候変動を踏まえた計画の見直し検討

【適宜検討】

現・基本方針: 1/100

※平成21年2月策定

新・基本方針: 1/〇〇〇

※計画雨量等の見直し(計画降雨×1.1倍)

●主な追加メニュー

✓ 河川形状を見直し(引堤など)

佐 賀 県

プロジェクト I F 令和4年度の取組

Inland water Flooding

【予算総額】 37.0 億円

* 2月補正予算を含む

人命等を

守
る

内水監視カメラ等 活用

避難タイムライン 等

住まい方 の誘導

農業機械避難 等

● 内水監視カメラ・
センサ等の設置

・ 県管理道路への設置	(道路課)	452 百万円
・ ため池・クリークへの設置	(農山漁村課)	58 百万円
・ 浸水センサ、浸水計の設置	(危機管理防災課)	56 百万円
・ ケーブルテレビでの設置推進	(情報課)	31 百万円

● 農機具保険への加入推進のための広報活動

(生産者支援課) 0.7 百万円

内水を

貯
める

ダム の貯留機能強化

公共施設 の貯留機能強化

クリーク の事前放流

田んぼダム の推進

ため池 の貯留機能向上

● 法面崩壊が進行したクリークの護岸整備

(農山漁村課) 179 百万円

● 田んぼダムの推進経費

(農山漁村課) 42 百万円

● ため池・クリークの治水活用検討調査

(農山漁村課) 105 百万円

内水を

流
す

排水ポンプ車 の導入

排水機場 の機能向上

河川 整備、浚渫・伐採

● 排水ポンプ車の整備

(河川砂防課) 219 百万円

● 河道内の堆積土砂の撤去

(河川砂防課) 1,245 百万円

● 河道拡幅、排水機場新設

(河川砂防課) 625 百万円

● 排水機場の耐水化、増設

(農山漁村課)	89 百万円
(農山漁村課)	315 百万円

● 水門の遠隔操作体制の整備

(河川砂防課) 260 百万円

● 流域治水に関する調査に係る市町補助

(河川砂防課) 30 百万円

人命等を

守
る

① 内水監視カメラ・センサ等の設置

(道路課)	452 百万円
(農山漁村課)	58 百万円
(危機管理防災課)	56 百万円
(情報課)	31 百万円

- ▶ 内水氾濫のおそれのある地域等へ内水監視カメラ等を設置し、内水状況の早期把握、実動機関との共有、県民への情報提供を行う。

県管理 道路	◆ 内水監視カメラ・浸水計 : 26箇所 ◆ 道路情報板 : 13箇所 【設置場所】令和3年8月豪雨での冠水による通行止め箇所	* R3.11補正で一部 債務負担行為済
クリーク	◆ 内水監視カメラ・水位計 : 11箇所 【設置場所】内水被害軽減の事前放流を実施している幹線的なクリーク等 (神崎市、佐賀市、白石町)	
ため池	◆ 内水監視カメラ・水位計 : 11箇所 【設置場所】貯留効果が期待できる20万m³以上の防災重点農業用ため池 (武雄市、江北町、白石町)	
浸水センサ ・浸水計	◆ 浸水センサ・浸水計 : 200箇所程度	2月補正
その他	◆ ケーブルテレビ事業者への内水監視カメラ設置補助 (補助率2/3)	2月補正



① 農機具保険への加入推進のための広報活動

(生産者支援課) 0.7 百万円

- ▶ 近年激甚化する自然災害に備え、農業者が経営に不可欠な農業用機械を継続して使用できるよう、保険への加入を促進する。

事業概要 { ・農業共済等による戸別訪問 ・ラジオによる広報活動 (5月)
・生産組合長会議等における周知 (チラシ配布)

内水を

貯

める

① 法面崩壊が進行したクリークの護岸整備

(農山漁村課)

179 百万円

- ▶ クリークの護岸整備や土砂撤去を行うことにより、洪水貯留容量を確保する。

事業概要	・ 工 期	: R4～R8 (5ヶ年)
	・ 総事業費	: 約17.7億円
	・ 受益面積	: 約2,400畝
	・ 整備内容	: クリーク護岸整備、土砂撤去 (L=約30,000m)
	・ 実施地域	: 白石町

① 田んぼダム推進事業

(農山漁村課)

42 百万円

- ▶ 田んぼダムを約800haを対象に実施し、大雨時に一時的に80万m³の雨水を貯留する。

事業概要	・ 堰板配布	: 3,200枚 (800ha÷0.25ha)
	・ 田んぼダム導入協力金	: 2,000円/10a (準備金+管理費)
	・ 災害復旧補償	: 130千円×160箇所
	・ 堰板の研究(委託)	: 水位・雨量観測など
	・ 実施地域	: 佐賀市、武雄市、神埼市 他



① ため池・クリークの治水活用検討調査

(農山漁村課)

105 百万円

ため池

- ▶ 既存の農業用ため池の貯留能力の評価を行い、治水活用に向けた検討を行う。
【実施地域】杵島地区(武雄市、大町町、江北町、白石町)

クリーク

- ▶ 効率的なクリークの操作に係るゲートの遠隔操作等、湛水被害の軽減に向けた効果的な整備計画の策定を行う。
【実施地域】東部地区(神埼市、吉野ヶ里町、上峰町、みやき町)



プロジェクト I F 令和4年度の取組

Inland water Flooding

内水を

流

す

㊦ 排水ポンプ車の整備

(河川砂防課)

219 百万円

- ▶ より迅速で、機動的な排水作業を可能とするため排水ポンプ車（5台）を整備する。排水ポンプ車にはカメラを設置し、排水作業の状況等を県庁と共有する。
* R3.9補正で債務負担行為済



㊦ 河道内の堆積土砂の撤去

(河川砂防課)

1,245 百万円

- ▶ 河川内に堆積している土砂を撤去するとともに、流下能力を阻害している樹木を伐採する。
* R3.11補正で一部債務負担行為済

㊦ 河道拡幅、排水機場新設

(河川砂防課)

625 百万円

- ▶ 県管理河川において、河道掘削・引堤、排水機場の新設を行う。
- 事業概要
- | | | |
|--------|----------|-------------|
| ・ 武雄川 | ： 河道拡幅 等 | (L=約1,000m) |
| ・ 広田川 | ： 排水機場新設 | |
| ・ 山犬原川 | ： 河道拡幅 等 | (L=約400m) |



㊦ 排水機場の耐水化、増設

(農山漁村課)

89 百万円

315 百万円

- ▶ 排水機場の再度災害防止のため、止水壁等の耐水化を行う。〔下潟（大町町）、志久（武雄市）〕
- ▶ 浸水被害軽減のため、排水機場にポンプの増設を行う。〔下潟（大町町）〕

㊦ 流域治水に関する調査に係る市町補助

(河川砂防課)

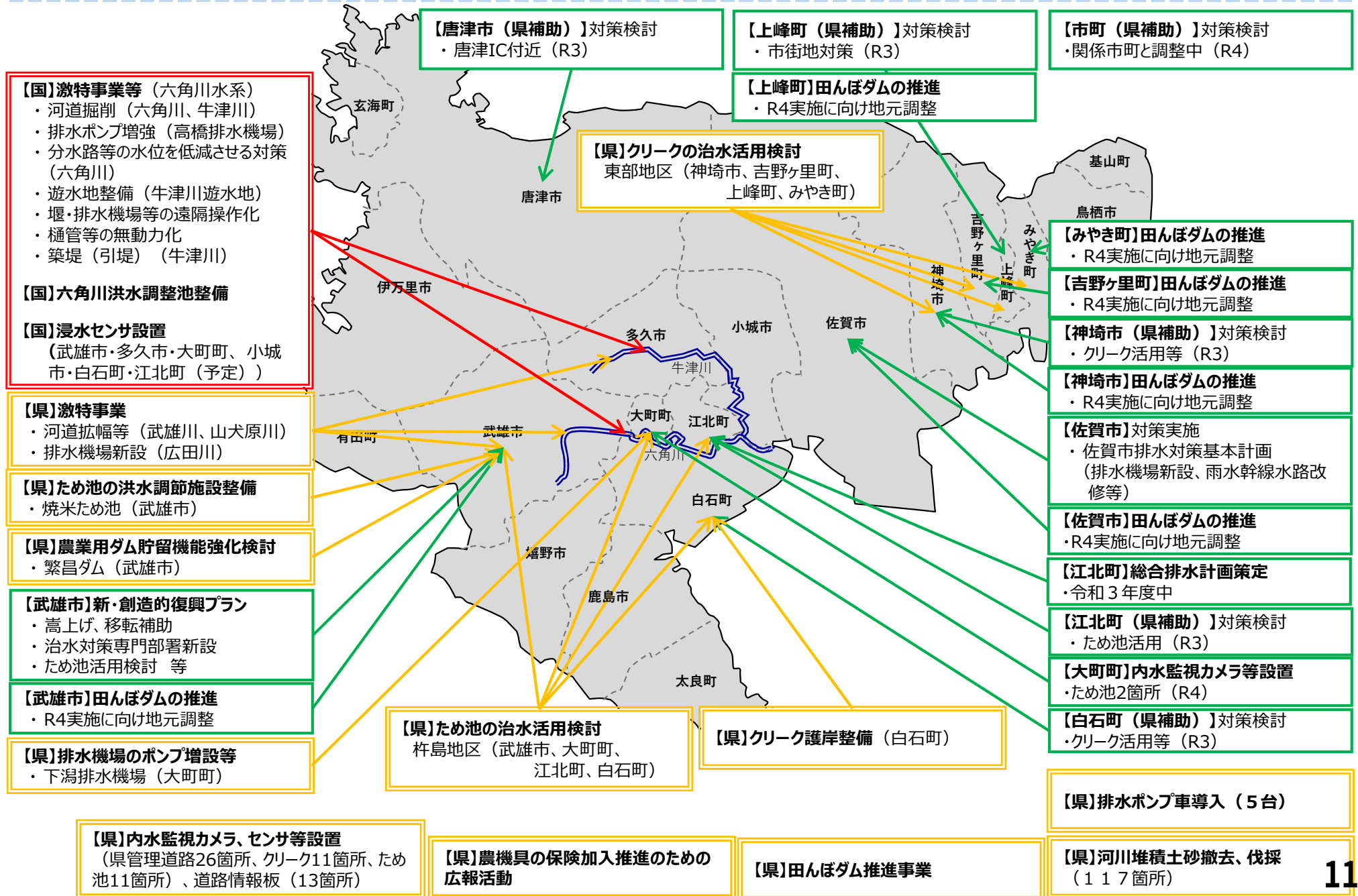
30 百万円

- ▶ 市町が実施する流域治水に関する調査に対する補助（補助率1/2以内）。
関係市町と調整中

プロジェクト I F 国、県、市町の取組

Inland water Flooding

国の取組
県の取組
市町の取組



プロジェクト I F 国、県、市町の取組

Inland water Flooding

国

●浸水センサー設置

武雄河川事務所 …
武雄市、多久市、大町町に設置済み、
小城市、白石町、江北町に設置予定

●激特事業等（六角川水系）

・遊水地整備（牛津川遊水地）

●六角川洪水調整池整備

●激特事業等（六角川水系）

・河道掘削（六角川、牛津川）
・排水ポンプ増強（高橋排水機場）
・分水路等の水位を低減させる対策（六角川）
・堰・排水機場等の遠隔操作化
・樋管等の無動力化
・築堤（引堤）（牛津川）

※河川大規模災害関連事業

県

●内水監視カメラ、センサ等設置

・県管理道路26箇所、道路情報板13箇所
・クリーク11箇所、ため池11箇所

●農機具の保険加入推進のための広報活動

●ため池の洪水調節施設整備

・焼米ため池（武雄市）

●農業用ダム貯留機能強化検討

・繁昌ダム（武雄市）

●田んぼダム推進事業

●クリーク護岸整備（白石町）

●ため池の治水活用検討

・杵島地区（武雄市、大町町、江北町、白石町）

●クリークの治水活用検討

・東部地区（神崎市、吉野ヶ里町、上峰町、みやき町）

●排水ポンプ車導入（5台）

●河川堆積土砂撤去、伐採（117箇所）

●激特事業

・河道拡幅等（武雄川、山犬原川）
・排水機場新設（広田川）

●排水機場のポンプ増設等

・下瀬排水機場（大町町）

●流域治水に関する調査（市町補助）

市町

●カメラ、浸水センサー設置

佐賀市…浸水計（29箇所）データの一般公開を検討中。

神崎市…国交省のワンコイン浸水センサ実証実験を予定（R4～）

●田んぼダムの推進

佐賀市、武雄市、神崎市、吉野ヶ里町、上峰町、みやき町…R4実施に向け地元調整

●計画策定等

佐賀市…排水対策基本計画（排水機場新設、雨水幹線水路改修等）

武雄市…新・創造的復興プラン（嵩上げ・移転補助、治水対策専門部署新設、ため池活用検討等）

江北町…総合排水計画（R3年度中に策定）

●流域治水に関する調査

【R3】唐津市…唐津IC付近
神崎市…クリーク活用等
白石町…クリーク活用等
江北町…ため池活用
上峰町…市街地対策

【R4】関係市町と調整中

守

貯

流

多 久 市

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

■緊急浚渫推進事業【多久市】

市が管理する河川の緊急浚渫事業を実施（令和3年度～令和6年度）
河川氾濫等の大規模な浸水被害が相次ぐなか、河川の浚渫が重要であるため計画的に取り組みます



クリークやため池の緊急浚渫事業を実施（令和4年度～令和6年度）
クリークやため池の浚渫を行い、豪雨時の貯水量を確保し、農村地域の浸水被害の低減を図ります



① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

■農村地域防災事業【多久市】

近年多発する豪雨災害の対策の一つとして、ため池災害からの被害を軽減し農村地域の防災力を高めます

- ・ 既存のため池の劣化状況及び豪雨に対する性能を評価
- ・ ため池が決壊した場合の浸水範囲をシミュレーションし、地域住民の避難に活用
- ・ 作成したハザードマップをお知らせするため、看板を設置



武 雄 市

【1】氾濫を出来るだけ防ぐ・減らすための対策

■ 今あるものを最大限活用

- ・田んぼダムの整備
- ・ため池、利水ダムの事前放流

令和4年度
貯水量 **130万t** 目標



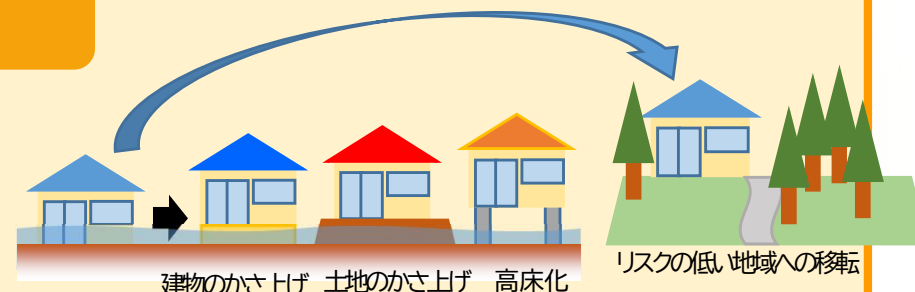
■ 新たな内水対策

- ・遊水公園
- +
- ・内水調整池
- ・地下浸透施設 など

【2】被害対象を減少させるための対策

■ 住まい方の工夫による被害の軽減

- ・立地適正化計画による災害リスクの低い居住地域への誘導
- ・宅地のかさ上げや住宅の浸水対策、移転に対する補助



【3】被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

■ さらなる情報発信の強化

- ・臨時災害FM局の整備

■ 避難体制の強化

- ・地域避難所の環境整備
- ・車両避難場所の確保（1,600台⇒3,200台）



小 城 市

新・六角川水系流域治水プロジェクト【小城市】 1/2

～水災害に強いまちづくりのために～

【1】氾濫を出来るだけ防ぐ・減らすための対策

■ 排水機場のポンプ更新

- ・ 鉦害復旧事業で建設された排水機場(7施設)は、現在では建設30年から40 年を迎えている。
- ・ 今後は老朽化により整備・更新が必要となる施設が増加することが予想され、これに伴い施設の維持管理に要する費用も年々増加すると考えられることから、計画的な排水機場のポンプの更新が必要。
- ・ まずは、令和4年度 **満神排水機場のポンプ更新**に向けた設計委託を行う。

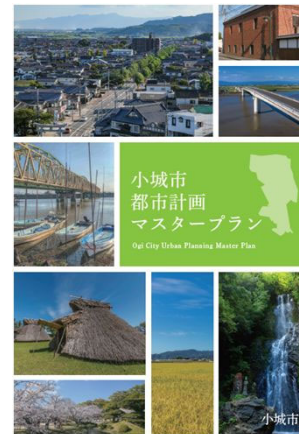


令和3年8月14日 18:00 撮影

【2】被害対象を減少させるための対策

■ 都市計画マスタープランの見直し

- ・ 現行の小城市都市計画マスタープランに「**六角川水系**」関連方針を追記、又地域別構想(4町別)を見直しにより追加している。
- ・ 地域別構想には①地域の概要、②住民意向等、③地域づくりの目標、④地域づくり方針(方針図)の4項目で構成し、方針については、①拠点形成、②市街地整備、③交通基盤整備、④環境・資源の保全・活用、⑤**防災対策**の5つの視点で分類。
- ・ 今後、立地適正化計画についても見直しの検討を行う。



令和4年3月策定



小城地域の地域づくり方針には
遊水地事業についても掲載

新・六角川水系流域治水プロジェクト【小城市】 2/2

～水災害に強いまちづくりのために～

【3】被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

■ 防災情報を共有できる情報アプリの改良と周知及び活用の推進

- ・ 市が発信する大雨警報や避難所などの防災情報をプッシュ通知で知らせる。
- ・ 災害情報だけでなく、「天気予報」や「市の情報」などが見れることを活かし、住民に広く周知し、**平時からの利用の推進**を行う。
- ・ 防災行政無線、災害情報等配信サービスに加えて、災害情報を発信するツールとして活用し、継続的に改良、**住民への周知**を行なっていく。

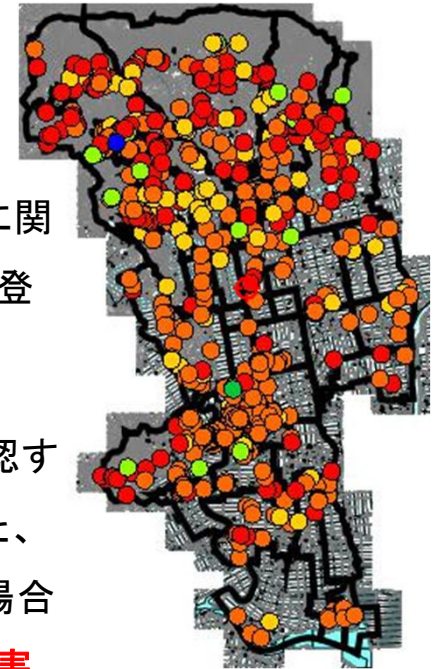


■ 避難確保計画の作成の推進

- ・ 洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域に位置する要配慮者利用施設へ避難確保計画説明会等の実施(対象施設は108施設)
- ・ 令和4年3月末までに対象となる要配慮者利用施設の**避難確保計画作成完了を目指す**。

■ 防災システム(GIS)の運用開始

- ・ 令和3年8月豪雨災害から本格稼働。
- ・ 住民による電話、現地確認等災害対応に関わるすべてを防災システム(GIS)に登録。(登録件数:約750件)
- ・ 全庁的に被災箇所、問合せ情報等を確認することができ**情報の共有化**が図られた。また、災害の受付部署と現地対応部署が異なる場合でも引継ぎをスムーズに行うことができ、**災害対応の迅速性**につながった。



令和3年8月豪雨災害プロット状況

大 町 町

内水を

溜める 流す

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

○氾濫抑制の取組

- 1.下渦排水機場の耐水化、排水能力増強
(止水壁2m30cm、遠隔操作
排水機場に避難用ボート配備)
- 2.移動式排水ポンプ配備(2台)
- 3.既存排水ポンプの増強及び排水樋門拡幅、
洪水調整池
- 4.ため池の事前落水
- 5.ため池治水活用
- 6.洪水吐改良
- 7.クリーク・水路の浚渫
- 8.田んぼダム整備



人命など

守る

被害の軽減・早期復旧・復興のための対策

○逃げ遅れゼロに向けた情報発信

- 1.防災行政無線、防災ラジオ、SNSなどを活用した情報発信
- 2.SNSを活用し外出先でも受信可能なプッシュ式による発信
大町町公式ラインアカウントQRコード →
- 3.防災マップ全戸配布など防災対策の周知
防災講座等による防災知識の普及



○堤防空間を活用した防災機能向上

- 4.農機具の一時避難場所として河川敷の活用

○被災施設の復旧

- 5.下渦排水機場の原形復旧、耐水化

○特定都市河川浸水被害対策法について継続して協議



江 北 町

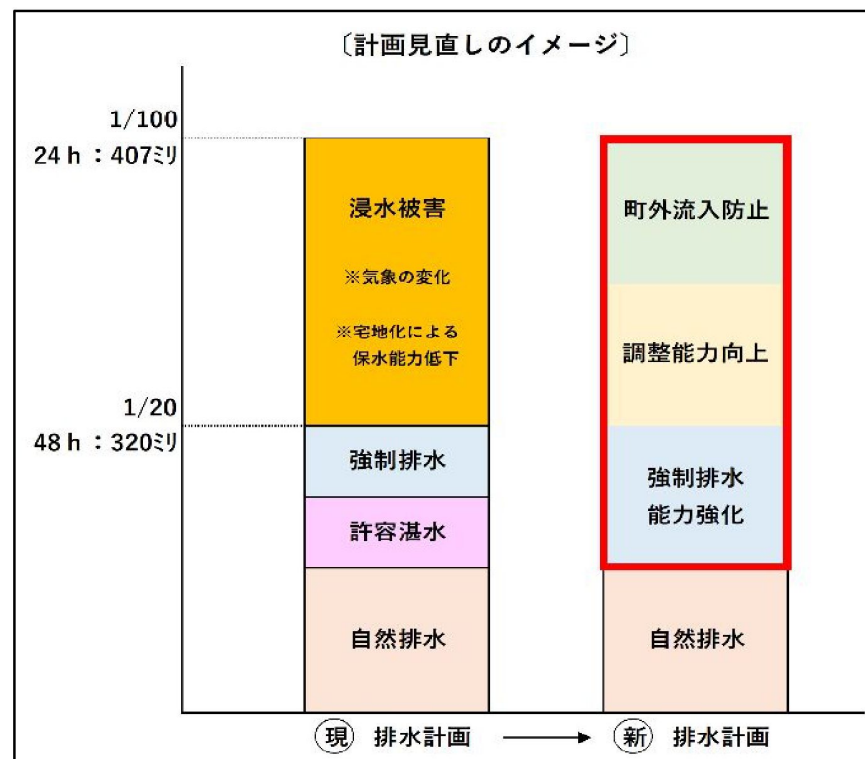
江北町新総合排水計画計画について

1 策定の背景

江北町の排水計画は、昭和 40 年代に鉱害復旧事業時の分水計画に基づき、農地の効用回復を目的として策定されました。

近年、頻発化・激甚化する豪雨によって全国各地で大規模な水害が発生し、本町においても令和元年 8 月豪雨、令和 3 年 8 月豪雨により平野部の広範囲で内水氾濫が発生し甚大な被害となりました。さらに計画策定当時に比べると宅地開発も進み、土地利用状況も変化している状況です。

このような、社会情勢や環境の変化に対応し、効果的な検証や今日的視点で見直しが必要であることから新たな排水計画を策定するものです。



2 計画の概要

排水対策の体系		具体的対策（実施時期）	短期（1～2年）		中期（3～10年）	長期（11年～30年）	実施主体		
			R4	R5	R6～R13	R14～	国	県	市
			出水期	出水期後					
【流す】	連続運転	人 員	待機室整備、操作マニュアル作成 〔操作員待機室の環境整備〕	待機室改修（東古川） 操作マニュアルの作成（全施設）					● ●
		燃 料	タンク増設 〔フル稼働で3日間運転可能容量を確保〕	鳴江・東古川・大西					●
		冷却水	水中ポンプ導入 〔エンジン冷却用ポンプの備品購入〕	城ノ井・東古川					●
		モーター化	電動機へ更新 〔エンジンからモーターへの更新〕	城ノ井 東古川・鳴江・大西					●
	浸水対策	耐水化	排水機場の止水板 〔床面標高2.7mを浸水想定とし対策〕	東古川・朽木					●
		環境整備	進入道路の整備	城ノ井					●
【溜める】	事前落水	体制整備	ルール化	事前落水の手順の向上					● ●
		協議会設置	関係者との連携 〔区長、ゲート管理者、配管・排水機場係員〕	出水期前と非出水期に開催 〔回数は必要に応じて実施〕					● ●
		ため池	事前落水の構築	回復可能降雨量を活用した事前落水 〔10万t以上5カ所〕					● ●
		用水路	貯留容量の確保 支障工作物の撤去	①支障工作物調査 ②地元確認 ③幹線水路及び農業用排水路の落水					● ●
	不要貯水	ため池	不使用ため池の確認	不使用ため池の地元協議					● ●
		用水路	水路の不要貯水の確認	①不要水路の調査②地元確認 ③常時落水					● ●
	貯留機能	田んぼダム	導入の研究（効果検証）	県と連携・情報収集					● ● ●
【防ぐ】	小城市 （満神P）	満神P	武雄河川事務所と連絡調整 〔ポンプ運転調整〕	国へ要望 小城市との連携				●	● ●
	大町町 （高良川）	高良川	杵藤土木事務所と連絡調整 〔ポンプ能力の増強〕	県へ要望 大町町との連携					● ● ●

白 石 町

■支川の流出抑制・氾濫抑制の取組

【クリークを活用した雨水貯留容量の確保】

【大雨に備えた事前の対策】

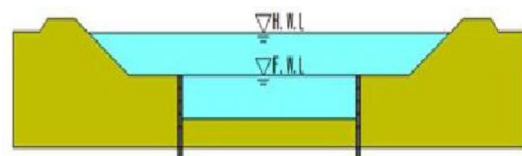
- 行政放送により町内全域に事前排水の呼びかけ、町内巡回により個別に事前排水を要請
- これまでの事前排水の水位を更に低下することで更なる貯水ポケットの確保を図る

治水効果

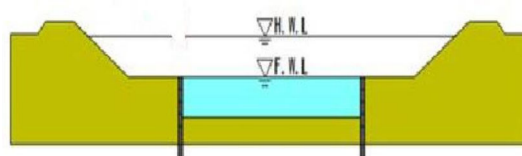
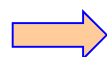
湛水被害を軽減するため、大雨時の一時貯留断面を確保



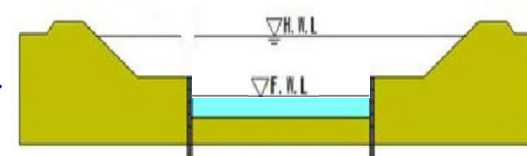
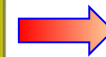
事前排水



用排水路
(通常時)



用排水路
(これまでの事前排水高)



用排水路
(事前排水の強化)

《排水調整会議の開催》

- 近年の天候（大雨）の傾向と対策
- 事前排水の重要性の説明
- 調整員、上下流地域間の連携強化など



- 効果
- 町内の各地域に呼びかけ、事前排水の徹底を図ることで湛水被害の防止、軽減が期待できる
 - 町民の防災意識の向上を図ることができる

■支川の流出抑制・氾濫抑制の取組

【排水計画等の作成】

【令和4年度】 白石町流域治水推進計画の作成（令和3年度発注）

○町内の総合的な流域治水対策のための計画作成

令和4年6月

○作成した推進計画に基づき各種対策を取り組む

令和4年度～

■浸水被害を軽減する取組

【排水機場や排水ポンプ車等の整備】

【令和4年度】 冠水常襲地帯への排水ポンプ整備（2箇所）



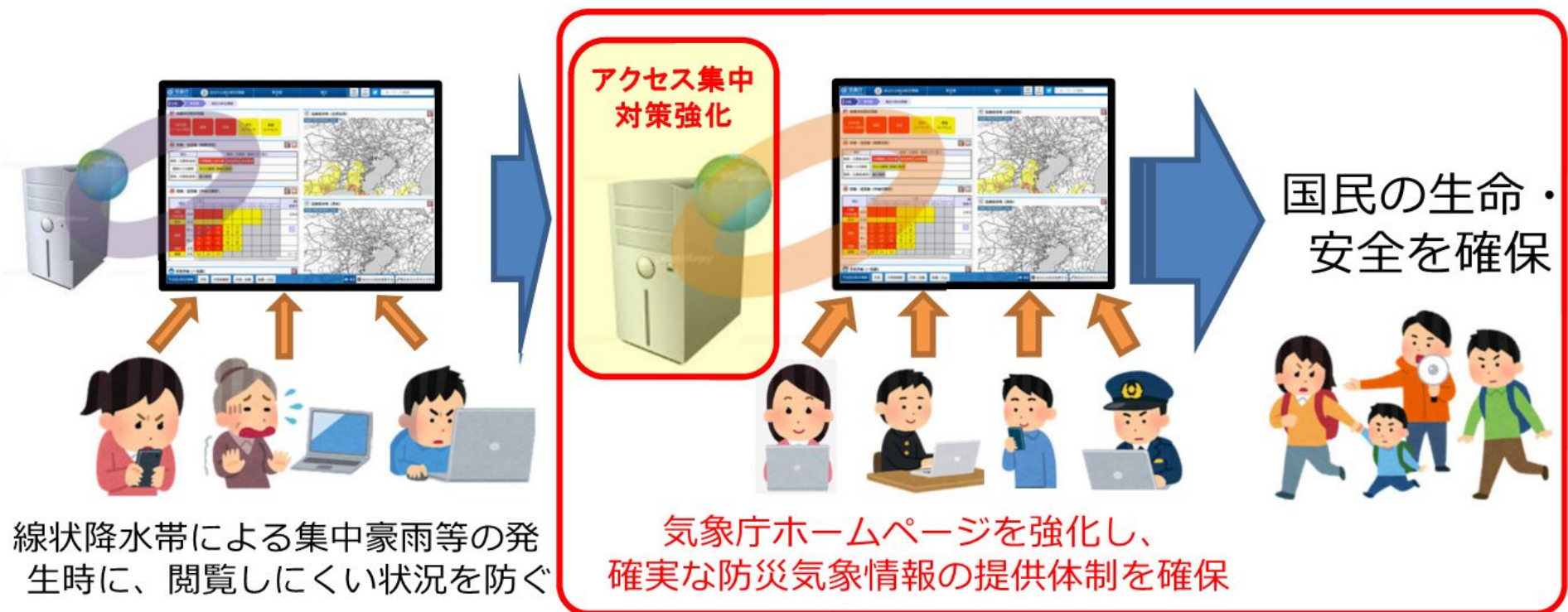
効果 ○町内の冠水常襲地帯の内水氾濫を軽減することができる

佐 賀 地 方 気 象 台

1. 防災気象情報提供環境の強化

佐賀地方気象台

防災気象情報を国民に提供する気象庁ホームページを強化し、線状降水帯等による集中豪雨や大規模地震災害・火山災害時のアクセス集中時にも防災気象情報を確実に提供できるようにする。



2. 線状降水帯と予測精度向上に向けた課題

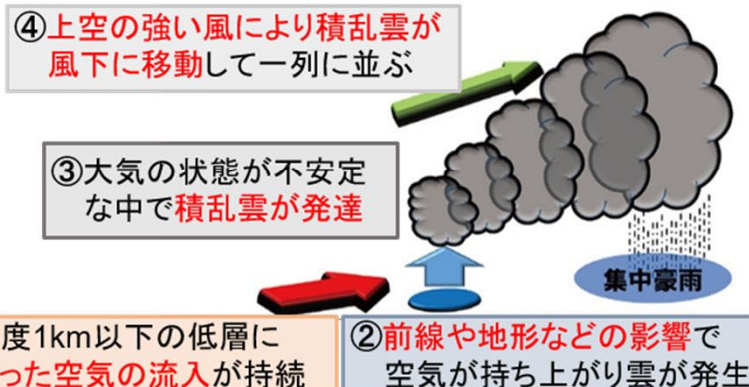
【線状降水帯とは】

線状降水帯は、次々と発生した積乱雲により、線状の降水域が数時間にわたってほぼ同じ場所に停滞することで、大雨をもたらすもの。線状降水帯が発生すると、災害の危険性が高くなります。

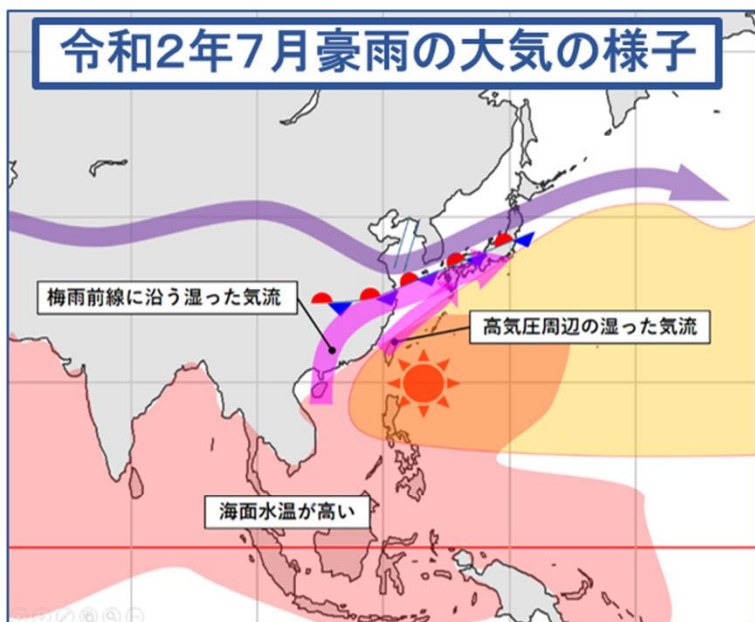
(最近の災害事例)

- ・平成26年8月豪雨広島
- ・平成27年9月関東・東北豪雨
- ・平成29年7月九州北部豪雨
- ・平成30年7月豪雨西日本豪雨
- ・令和2年7月豪雨

線状降水帯の模式図

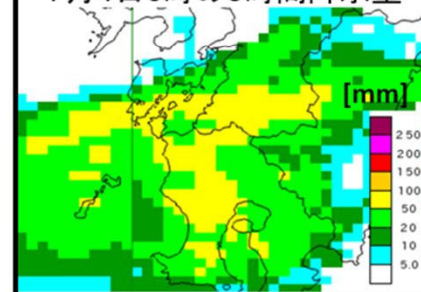


令和2年7月豪雨の大気の様子

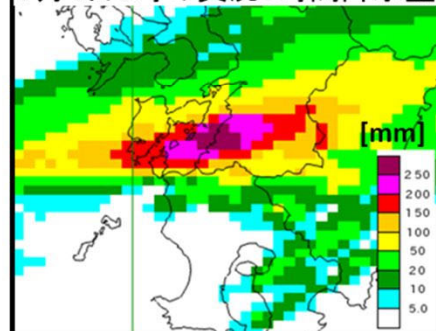


大気の流れとしては、梅雨前線帯に沿って流れ込む水蒸気と太平洋高気圧の縁に沿うように流れ込む水蒸気とが、九州を中心に広く西日本から東日本にかけて合流して豪雨をもたらしたと考えられる。

15時間前の予測した
7月4日6時の3時間降水量



7月4日6時の実況3時間降水量



線状降水帯の予測精度向上に向けた課題

①水蒸気の流入を正確に捉える(特に海上)

...水蒸気の鉛直構造や流入量が正確には分かっていない。

②数値予報モデルの性能を高める(線状降水帯の構造・発生・持続)

...個々の積乱雲の発生等を予測できないため、いつどこで線状降水帯による大雨が発生し、どのくらいの期間継続するのか、事前には分からない。

③線状降水帯の発生確率にかかる情報を提供する

...予測技術踏まえた線状降水帯による大雨の危険性の呼びかけができていない。

3. 「線状降水帯の発生をお知らせする情報」の発表開始

佐賀地方気象台

R3.6.17
提供開始

線状降水帯がもたらす降り続く顕著な大雨への注意喚起

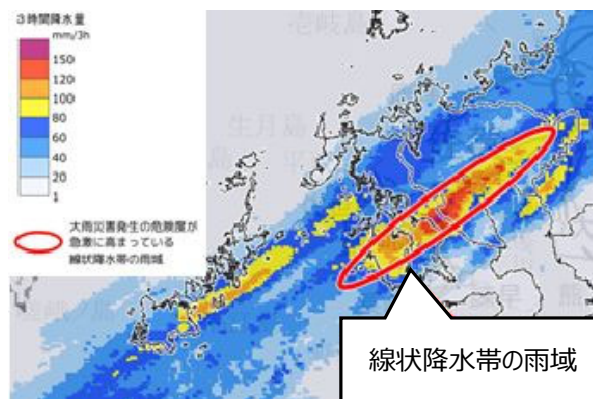
- 線状降水帯の事前予測が難しい中、レーダー等による観測で、線状降水帯が発生していることを検知した際に情報を発表
- 大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続いている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説

顕著な大雨に関する情報の例

顕著な大雨に関する佐賀県気象情報

令和○年○月○日○時○分 佐賀地方気象台発表

佐賀県南部では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。



顕著な大雨に関する情報を補足する図情報の例

気象庁HPの「雨雲の動き」や「今後の雨」において、大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域を○で囲み、線状降水帯発生 of 情報を提供します。

※左図は「雨雲の動き」（高解像度降水ナウキャスト）の例

（令和3年に顕著な大雨に関する情報を発表した事例）

- 6月29日 沖縄本島 ■7月1日 伊豆諸島 ■7月7日 島根県・鳥取県 ■7月10日 鹿児島県
- 8月9日 島根県 ■8月14日 長崎県・佐賀県

4. 線状降水帯の予測精度向上に向けて

線状降水帯は、現状の観測・予測技術では、正確な予測が困難なため、水蒸気観測等の強化、気象庁スパコンの強化や「富岳」を活用した予測技術の開発等を早期に進める。

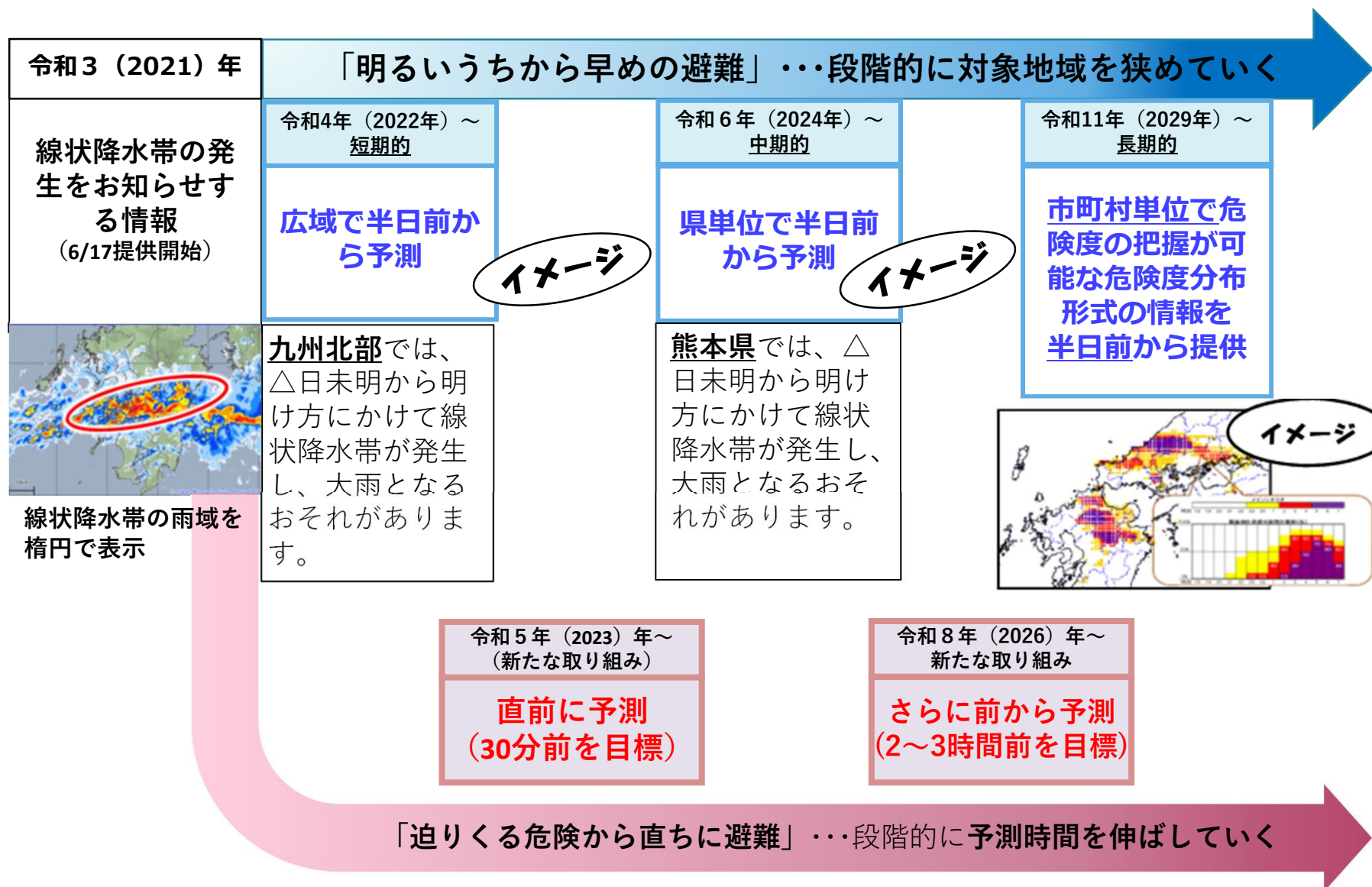
観測の強化



予測の強化



5. 線状降水帯による豪雨に対する情報提供の改善



※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討

森 林 整 備 セ ン タ ー

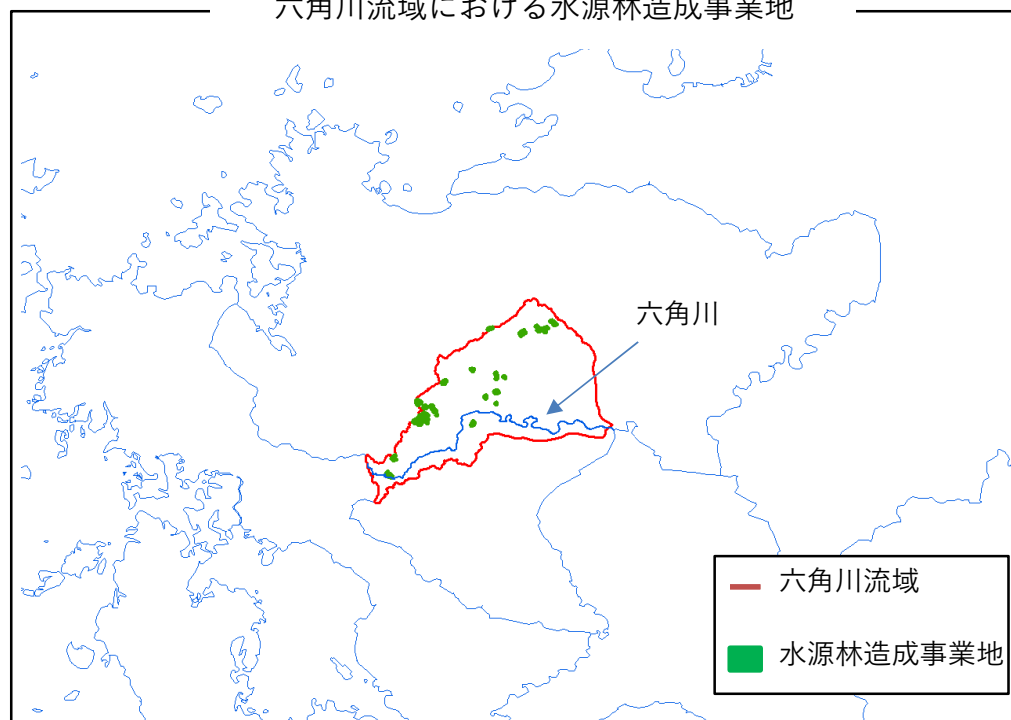
流域における対策

■ 水源林造成事業による森林の整備・保全

・ 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業であり、除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進します。

令和3年度は【氾濫を出来るだけ防ぐ・減らすための対策】のメニューの間伐について約11haを実施し、今後、六角川流域内の22箇所（森林面積 約203ha）を対象に、現地の状況に応じて、随時実施していく予定です。

六角川流域における水源林造成事業地



水源林の整備



針交混交林

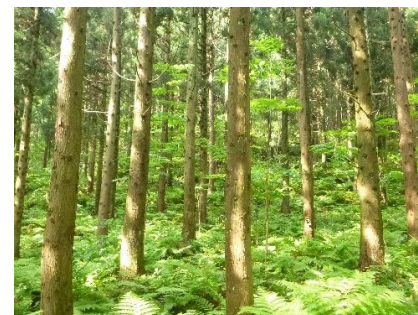


育成複層林

森林整備実施イメージ



間伐実施前



間伐実施後